

B-7					
主題	「PEAP」を取り入れた認知症高齢者への生活環境における取り組み				
副題	ご利用者が居場所を選択できる環境を目指して				
キーワード 1	PEAP	キーワード 2	なし	研究(実践)期間	10 か月

法人名・事業所名	社福) 浴風会 南陽園
発表者(職種)	涌井雅也(ケアリーダー)
共同研究(実践)者	合谷孝文、茂呂麻衣子、5 階スタッフ一同

電 話	03-3334-2159	F A X	03-3334-1745
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	特別養護老人ホーム南陽園は昭和 46 年に開設され、平成 3 年改築後は定員 254 名(うちショートステイ 12 名)の 5 階建て施設となりました。従来型施設で、5 階が利用者 38 名(うちショートステイ 3 名)の認知症高齢者の専用フロアとなっています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

10 年ほど前に『認知症高齢者への環境支援のための指針(PEAP 日本版)』を取り入れた環境づくりを行い、ご利用者のニーズに伴い、その場に応じた環境改善を繰り返していた。しかし、時間の経過とともに担当職員の入れ替わり等で「PEAP」の視点に基づいた評価をすることなく、統一性のない空間になってしまっていた。また、コロナ禍における外出制限による施設内での生活様式の変化を踏まえて、改めて「PEAP」の視点を活用し、フロアの環境を見直すとともに屋内で楽しめる環境づくりを目標にした。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本研究では「PEAP」をもとに認知症フロアの環境の見直しを行い、ご利用者の居場所づくりに取り組むことにした。認知症高齢者が抱える特有の症状として、見当識障害による場所や時間の見当がつかない等の認知機能の低下によるもの、言葉の意味が伝わらない、正確な言葉で伝えられない等のコミュニケーションの取りづらさ、また、人とのつながりがきれすく孤立しやすいなどの人間関係の障害が生まれやすいという問題がある。そこで、スタッフに「PEAP」の手法を用いて、ケア環境を見直す視点とスキルを身につけ現存の環境の見直しを行った。また、「ご利用者が居場所を選択して過ごすことができる」環境を提供できるように居場所づくりに取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

代表職員 1 名、自立度の高いご利用者グループの担当職員 1 名、介助を要するご利用者グループの担当職員 1 名の計 3 名がコアメンバーとなり、定期的に会議を行いながら、環境づくりの理解を深め、フロアスタッフの協力を得ながら、取り組みを実施した。

1、 環境づくりの手法・手順

「施設環境づくりの支援プログラム（6 ステップ）」に沿って実施し、段階を踏んで進めていった。

STEP1：認知症ケアと環境への気づきを高める

STEP2：施設環境の課題をとらえて目標を定める

STEP3：施設環境づくりの計画を立てる

STEP4：環境づくりを実施する

STEP5：施設環境づくりを暮らしとケアに生かす

STEP6：環境づくりを振り返る

2、 ご利用者行動調査

介助を要するご利用者グループから 2 名選出し、センター方式 D4 シートを活用し、日常生活で過ごされている場所とその滞在時間を調査し、環境作り実施前と事後で比較した。

《4. 取り組みの結果》

生活シミュレーションシートに基づき、個別の生活習慣に当てはめて、リビングにおけるソファの配置の見直し等の環境づくりを行った。ご利用者の行動調査を行っていった中で、「ここじゃ嫌なの」「ちょっと行ってくる」と居心地が悪くなるが多かったご利用者が、リビングから出ていこうとすることが減り、穏やかに過ごされている時間が増えた。また、インターネットテレビを導入したことにより YouTube 等の動画配信サービスの視聴により、好きな番組を選べ、ご利用者同士の会話が増えた。

《5. 考察、まとめ》

本研究で取り組んだ環境づくりはご利用者の居場所づくりだけでなく、施設に入所している認知症高齢者に対して環境支援を行うための 8 次元の項目を確認しながら評価をしたことによって、スタッフの意識改革にもつながる結果となった。しかし、実施した環境づくりはご利用者のニーズによって変化が生じ、それに伴って随時見直していかなければいけない。また、コロナ禍において生活圏内が限定されていることもあり、うまく ICT の力を借りながら、ご利用者に選択できる環境を提供していくことが必要だと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

児玉桂子他編著「PEAP にもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル」、中央法規、2010

《8. 提案と発信》

今回は「PEAP」という手法を用いて環境づくりを行った。根拠に基づいた評価を行ったことで、スタッフに新たな気づきや発想が生まれ、環境づくりの在り方を学べたのではないかと思う。自分の想いをうまく伝えることができない認知症高齢者に対して、ツールをうまく活用しながら、根拠に基づいたケアを行うことで介護スタッフの育成にもつながると考えている。